

第4回 新たな経済成長戦略策定に向けた懇話会 議事概要

■日時：平成30年7月30日（月）18:00～20:00

■会場：仙台市役所本庁舎2階 第二委員会室

■テーマ：地元企業支援

■参加者（敬称略）：

仙台市長 郡 和子（座長）

仙台商工会議所 理事・事務局次長 阿部 昌展

株式会社カネサ藤原屋 代表取締役副社長 佐藤 万里子

株式会社ヒロセ 代表取締役社長 菅井 伸一

ゴリラガードギャランティ株式会社 取締役経営戦略部長 夏原 潤

今野印刷株式会社 代表取締役社長 橋浦 隆一

工藤電機株式会社 代表取締役 引地 智恵

株式会社深松組 代表取締役社長 深松 努

東北大学地域イノベーション研究センター センター長 藤本 雅彦

株式会社三好堂 代表取締役 三好 一夫

（進行役：仙台市経済局長 遠藤 和夫）

- 次第：1. 市長挨拶
2. 参加者自己紹介
3. プレゼンテーション
4. 意見交換

■主なご意見

【中小企業の人材確保について】

- ・ 仙台には優秀な技術系の学生が多いが、就職で県外へ行ってしまう。放射光施設ができることで、仙台から海外に新しい技術を発信していけるということを若い人に知ってもらえる機会ができると良い。
- ・ 女性活躍推進法が施行されたが、中小企業は経営者の意識改革が遅れているように感じる。

【経営者向けの支援について】

- ・ マーケティング力とリーダーシップの2つが優れた経営者には備わっている。今後、時代が大きく変化して市場が縮小していく中で、漠然と経営計画などを学ぶのではなく、経営の本質を学ぶ場が経営者の成長には必要。
- ・ 異業種交流の場に参加してはじめて自分の業界の常識は非常識だと気がついた。異業種の経営者との出会いの場づくりを市にオフィシャルでやってもらえると、地元企業からも参加しやすいのでは。

【中小企業の成長支援について】

- ・ 成長性の高い企業に集中支援するなど、メリハリの利いた施策が必要。一定程度の雇用をもたらす企業を創っていかないと、地域経済は衰退していく。
- ・ 企業支援には目利き力が大事。行政も含めてその目をどう養うか、行政と事業主が一緒に参加して学ぶ場を提供してもらえると、企業同士のマッチングも加速するのでは。
- ・ ものづくり産業を加速させるなら、ものづくりのプラットフォームを作ることと、ここに行けばデザインが活用できるという情報発信をしていくことが必要。
- ・ 中小企業向けの支援を様々な団体がやっているが、情報が多すぎて経営者に届かない。どこかで取りまとめをして発信してもらえると、企業でも支援施策を活用しやすくなるのでは。

【その他のご意見】

- ・ セミナーや助成金等の事業だけでなく、大きな市場を作るような取組みこそ、仙台市が東北のリーダーとして力を発揮すべきことだと思う。
- ・ 他の地域にはない、仙台ならではの明確に差別化されたビジョンを持つ必要がある。
- ・ 仙台は震災を経験し、災害に強い街であることが証明された。これをもっと売りにして、民間投資を呼び込む必要がある。首都圏の企業がBCP計画を立てるうえでバックアップの地域を探しており、免震のオフィスがあれば仙台に移りたいという企業はたくさんある。
- ・ 放射光施設が仙台に立地することで、地元のコアな技術を持った企業が最先端の科学技術に貢献するようになることを期待している。
- ・ 燕三条市や鯖江市のように、メイドイン仙台の商品のチームを作って全国に売り出すような仕掛けがあるとよい。
- ・ 事業承継は世代をつないでいくほど難しい。事業の価値をどれだけ残して行けるか、市内外に発信していけるかが重要。

以上